

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100588		
法人名	社会福祉法人 明翠会		
事業所名	グループホームなのはな苑ねむのき 一会ユニット		
所在地	岡崎市合歓木町字上郷間337-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月22日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2392100588-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護方針「一期一会を大切に」をもとに7点に重点をおき一人ひとりに合わせた個別ケア(その人らしい暮らし)が実現できるよう支援させて頂いている。1.入居者様とご家族様、職員の出会いを大切にする 2.「過去」でもなく「未来」でもなく「今」を大切に生きる 3.当たり前にある感情にありのままに向き合い「心」に寄り添う 4.安心して暮らし“喜”“楽”あふれる温かな場所作りを提供する 5.日常生活では小さな幸せを、四季折々の行事や外出企画で大きな幸せを感じていただく 6.楽しいことや嬉しいことは何倍にも、悲しいこと心配ごとは半分に 7.一度きりの人生をその人らしく生きていただく
木造平屋建てで、木の温もりを感じながら生活する中で筋書きのないドラマが日々生まれています。施設内での生活に限らず、地域社会の一員として、地域の方々との交流を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの介護方針を定め、更に、利用者一人ひとりに合わせた適切な支援提供を目指した7点の重点項目を掲げ、実現に向けて取り組んでいる。理念・介護方針は職員に浸透し、日常支援に十分な反映がある。
理念・方針の実践・実現には、職員の教育・育成は不可欠であり、法人全体を見ても前向きな取り組みがある。全体の研修プログラムを作成した計画的な研修実施があり、職員のスキルアップを目指している。また、ホーム独自の認知症に関わる勉強会の実施もあり、介護知識、技術と併せ、認知症介護のプロとして利用者支援のできる、職員育成指導にも余念がない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示すると共に、ユニット会議やスタッフ会議等では理念に基づいたケアを実施するように検討している。	法人理念やホーム目標、介護方針を事務室や玄関に掲示し、常に意識できるようにしている。毎月開催する会議でテーマに挙げて話し合い、理念に沿った介護支援が実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になる前は地域の小学校で行われた敬老会・学芸会に参加させて頂いた。 むつみ・ねむのき合同で開催した秋祭りには多くの方に来苑頂いたが、日常的な交流には至っていない。	秋祭りでの子ども神輿が立ち寄ったり、近隣小学校の文化祭の予行演習に招かれるなど、コロナ禍でも交流を継続している。昨年は中止となったがホームの夏祭りには地域住民も多く参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	むつみ地域包括支援センターに相談に来られた方で認知症の家族を抱えている方に対して施設見学や相談を行っている。 運営推進会議にて利用状況などの説明を行っている。※現在は書面にて報告。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議が開催出来ておらず、報告のみになっている。 行事の写真や事故・ヒヤリハットの報告に写真を添付し、状況が分かるように工夫をしている。	コロナ禍により、運営推進会議は2ヶ月毎の書面開催とし、行事や事故報告などをメンバー始め関係各所へ配布している。写真を多く使用し、ホームの現状がわかりやすいように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば、その都度電話連絡もしくは市役所に出向いて確認、相談している。	市からはメールで各種通知・連絡がある。ホーム運営に関しての不明点などは、電話や担当窓口に出向いて相談・確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人のリスクマネジメントで検討。 玄関の施錠は行っていないが、ユニットの扉に関しては時と場合によって施錠を行っている。 7時前に一度、離棟してしまった入居者様がおおり、5時～7時までセキュリティを設置した。	法人全体でリスクマネジメントの取り組みがある。年間研修計画の中に身体拘束を位置づけ、研修や勉強会を行っている。管理者・リーダーは、不適切な対応がないように、日ごろから注意・指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「権利擁護・身体拘束・虐待」について施設内研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護・身体拘束・虐待」について施設内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書を一項目ごと丁寧説明させて頂き、入居されてからもその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、法人として顧客満足度アンケートを実施し、入居者様・ご家族様の意見が反映できるようにしている。	家族の来所は多く、面会時や電話連絡の際に意見・要望の聞き取りを行っている。法人の取り組みで、毎年顧客満足度アンケートを実施し、忌憚のない意見や提案の情報を収集している。面会自粛の中、家族からリモート面会の要望があり、早期に実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からのコミュニケーションに加え、個別面接において意見を伺うように心がけている。また、会議では意見・提案がしやすい環境作りに努めている。	ユニット会議やスタッフ会議、個人面談があり、意見や要望を聞く機会としている。法人の取り組みとして、職員アンケートも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個々のモチベーションが高くもって働けるよう職場環境づくりに努めている。定期的なリフレクション面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は事業所単位ではなく、法人全体の研修プログラムを作成、実施している。それに加えグループホーム独自で認知症の勉強会を実施している。コロナ禍で外部研修は実施出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市のグループホーム小部会に入会し情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。 ※コロナ禍で開催出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に可能な限り多くの情報を頂き、ご本人様の不安や要望を明確にしている。謙虚な姿勢で接し、安心して話し頂ける雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること不安に思っていることを話して頂けるような雰囲気作りに心がけている。また、会話の中で共通事項(出身地・趣味・嗜好)を見つけ身近に感じて頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺う中で優先順位を整理し、今必要だと思うサービスを見極めるようにしている。施設で賄えない部分は他のサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場に立って考え行動し、入居者様と職員が良好な関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設に足を運んで頂ける環境を整え、面会時にはその都度施設の様子を伝えてご家族様の意見を伺うようにしている。ご家族様と施設が同じ方向を向いてケアが実施できるように常にコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限を余儀なくされた。一会ユニットバルコニーを使い屋外での面会を実施。2回目の緊急事態宣言が発令され、リモート面会の希望があり1名実施している。	家族のほか知人・友人の面会も多い。コロナ禍でも、バルコニーを利用した面会、リモート面会等で顔を見て話ができるように支援している。また、利用者の趣味や生活習慣が、入居後も継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を把握し、食事席やレクリエーション活動時の配置席などを孤立せず良好な関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方においても、必要に応じて支援を行っている。 退院後の相談など。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で各担当職員を中心に本人様の意見を傾聴し、把握に努めている。 月1回のカンファレンスを行い、情報共有している。	入居時のアセスメントに加え、日々の関りの中で意見・要望の把握に努めている。利用者に寄り添い、知り得た情報を申し送りやカンファレンスで共有し、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から聞き取りを行い、今まで過ごしてきた環境や思いを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定をはじめ、食事・入浴・排泄状況等、心身状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成にあたって、ご本人様・ご家族様・施設職員の意見を踏まえ、半年に1度介護計画の見直しを行い、ご本人様・ご家族様にとって満足のできる介護計画書となるように努めている。	利用者一人ひとりに置いた担当職員が中心となり、毎月のモニタリングを実施している。6ヶ月毎に介護計画を更新し、サービス担当者会議で支援内容を検討し、本人・家族の意向重視で介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあればケース記録や申し送りノート、利用者ノートを活用し情報共有しケアの実践・改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった対応ではなく、その時々において最善の策を検討し、臨機応変に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を求め自ら出向く活動と、施設へお招きし楽しむ活動を一人一人の状況に合わせ支援している。 ご家族様にも定期的に外出してもらえるようお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様個々にかかりつけ医があり、基本的にご家族様が受診対応を行っている。受診の際、施設の様子が分かるように情報提供している。必要に応じて管理者と一緒に同行している。	利用者の入居前からのかかりつけ医受診を支援している。通院は家族対応となり、ホームからは利用者の健康状態の記録や、写真等を情報提供している。受審後は家族との情報共有に努め、必要に応じて管理者が同行し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成30年3月から非常勤の看護師を配置。介護・看護が連携を密にとり入居者様が安心して生活ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、1週間に1度は面会に伺い病院看護師に状態確認を行っている。 ご家族様とも定期的に連絡を取っている。 退院の目途が近づいたら医療相談員と連携をとりスムーズな対応ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の施設での対応について説明すると共に体調不良にはその都度話し合いを行う。 また、希望があれば特別養護老人ホームへの申し込み相談や説明を行っている。	入居時にホームの方針を説明し、同意を得ている。同法人の特別養護老人ホームと連携し、本人の状態に合わせた支援が選択できるように支援している。グループホームでの対応が難しくなった場合は、他施設や医療機関移行等、本人にとって最善の方法を家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、統一した対応ができるように研修を行っている。 急変や事故発生時は必ず家族に報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。 運営推進会議にて学区の総代会長様に災害時における地域の皆さまの協力が得られるようお願いしている。119番の通報訓練を複数回実施し、経験を詰めるようにした。	年2回の避難訓練を実施している。去年は他施設合同で炊き出し訓練も行った。水害想定地域であり、地域や近隣事業所への協力を要請している。	避難訓練だけではなく、災害時の安否確認や職員確保なども含め、具体的な被災想定による対策の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、その方の性格等も考慮し、誇りやプライバシーを損ねないように個々に応じた声掛けと対応を行っている。	利用者の意思を尊重し、何事も強制しない支援に努めている。プライバシー確保や権利擁護など、年間計画に沿って研修を実施し、対応方法を検討している。また、認知症理解を進め、利用者が不快や不安を抱かない対応を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりに声掛けを行い、傾聴し本人様の意思を尊重出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の思いや希望を大切に、無理強いをせず、なるべく希望に添えるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴等で衣類を準備する際はご自分で準備して頂けるように支援している。 個々で化粧水を使われている方もいる。 散髪は気分転換を兼ねて外部に行かれている方もいる。1ヶ月に2回、訪問理美容も実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍になる前は定期的買い物に出かけ、食事の準備から配膳、下膳と出来ることは一緒に行っている。 現在はイベント食やおやつ作り等に力を入れている。	朝・夕はチルド食を利用している。昼食は利用者の食べたい物を確認し、季節の食材で調理している。パン食やイベント食、おやつ作りなど、利用者の希望を取り入れ、食の楽しみに配慮している。また、役割発揮の場面であり、できる人ができることを行う姿がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて食事量・水分量を把握し支援している。 10時と15時のお茶の時間には好きな飲み物を伺い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアが実施できるように声掛けを行い、支援が必要な方には介助している。 訪問歯科を利用し、定期的にメンテナンスされている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、トイレ誘導を実施している。排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し支援している。	排泄チェック表を活用し、適切な声掛け・誘導でトイレでの排泄を支援している。利用者が戸惑わないように、支援方法を話し合い、同対応を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好を確認し、できるだけ多くの水分摂取を取って頂くようにしている。また、ご家族様に協力して頂き、ヨーグルトなどを食べてもらっている。体操や運動への参加を促し、腹部マッサージ等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は固定してしまっていますが、13時～16時の間で本人様の希望を伺い入浴して頂いています。また、身体状況において別日に変更するなど臨機応変に対応している。	1人週2回～3回の入浴支援を行っている。くつろいで檜風呂に浸かり、職員と1対1のコミュニケーションを楽しんでいる。入浴拒否がある場合は、時間や日にちを変更するなど、柔軟に対応し、入浴が楽しみの時間となるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室対応になっており、自分の好きな時間に休んで頂くようにしている。日中の活動を充実させ、昼夜逆転が無く、夜間にしっかり寝て頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は事務所で管理し、薬のセットは看護師が実施。お薬手帳や薬情で確認できるようにしている。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用して頂くようにしている。症状の変化を観察し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、日常生活の中で役割を持ちながら生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は病院受診の機会のみになってしまった。 天気がいい日は施設周辺を散歩している。	コロナ禍で、日常的な外出は、ホーム周辺の散歩と病院受診のみになっている。コロナ禍以前は、毎月、企画外出を計画・実施できていた。現在は、ホーム内でいちご狩りやスイカ割りなどの行事を工夫し、利用者の気転換を図っている。コロナ終息が待たれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様・ご家族様が希望された場合は居室にて現金を所持したり事務所で預かりしている。自動販売機でジュースを買ったり、買い物に出かけた際、好きなものを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話をかけたいと希望があった場合は施設の電話機をお貸ししている。手紙についても希望があれば対応する。年賀状を書いてご家族様に送っています。リモート面会も実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感が出るように季節花を飾ったり作品を作り掲示している。毎日掃除を行い不快に感じないよう清潔保持に努め、気持ちが和らぐような雰囲気作りを心掛けている。	リビングは、季節感を考えた飾り付けを工夫し、行事の写真や利用者の作品を掲示して、居場所づくりに配慮している。清潔保持のある生活空間で、現在はコロナ対策で、次亜塩素酸で定期的に消毒を行い、利用者の安全確保に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所に椅子を持って日向ぼっこしたり、ソファに座りゆっくりTVを見たり、ユニット間の移動も自由にしており、個々の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れたものを持ってきて頂くように声掛けを行っている。仏壇をもって来られている方もおり、基本的には、どんなものも持ち込んでいただいてもよいとしている。	入居時に、家具やテレビなどの使い慣れた物品の持ち込みをお願いし、生活の継続ができる環境作りに努めている。物品の配置を工夫し、居心地の良さに配慮するとともに、動線を考えた安全確保も支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造になっており一人でも安心して生活ができるように配慮されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100588		
法人名	社会福祉法人 明翠会		
事業所名	グループホームなのはな苑ねむのき		
所在地	岡崎市合歓木町字上郷間337-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月22日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyvoCd=2392100588-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護方針「一期一会を大切に」をもとに7点に重点をおき一人ひとりに合わせた個別ケア(その人らしい暮らし)が実現できるよう支援させて頂いている。1.入居者様とご家族様、職員の出会いを大切に
2.「過去」でもなく「未来」でもなく「今」を大切に生きる 3.当たり前にある感情にありのままに向き合い
「心」に寄り添う 4.安心して暮らし“喜”“楽”あふれる温かな場所作りを提供する 5.日常生活では小さな幸せを、四季折々の行事や外出企画で大きな幸せを感じていただく 6.楽しいことや嬉しいことは何倍にも、悲しいこと心配ごとは半分に 7.一度きりの人生をその人らしく生きていただく
木造平屋建てで、木の温もりを感じながら生活する中で筋書きのないドラマが日々生まれています。施設内での生活に限らず、地域社会の一員として、地域の方々との交流を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示すると共に、ユニット会議やスタッフ会議等では理念に基づいたケアを実施するように検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になる前は地域の小学校で行われた敬老会・学芸会に参加させて頂いた。 むつみ・ねむのき合同で開催した秋祭りには多くの方に来苑頂いたが、日常的な交流には至っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	むつみ地域包括支援センターに相談に来られた方で認知症の家族を抱えている方に対して施設見学や相談を行っている。 運営推進会議にて利用状況などの説明を行っている。※現在は書面にて報告。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議が開催出来ておらず、報告のみになっている。 行事の写真や事故・ヒヤリハットの報告に写真を添付し、状況が分かるように工夫をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば、その都度電話連絡もしくは市役所に出向いて確認、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人のリスクマネジメントで検討。 玄関の施錠は行っていないが、ユニットの扉に関しては時と場合によって施錠を行っている。 7時前に一度、離棟してしまった入居者様があり、5時～7時までセキュリティを設置した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「権利擁護・身体拘束・虐待」について施設内研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護・身体拘束・虐待」について施設内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書を一項目ごと丁寧説明させて頂き、入居されてからもその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、法人として顧客満足度アンケートを実施し、入居者様・ご家族様の意見が反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からのコミュニケーションに加え、個別面接において意見を伺うように心がけている。 また、会議では意見・提案がし易い環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個々のモチベーションが高くもって働けるよう職場環境づくりに努めている。 定期的なリフレクション面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は事業所単位ではなく、法人全体の研修プログラムを作成、実施している。それに加えグループホーム独自で認知症の勉強会を実施している。 コロナ禍で外部研修は実施出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市のグループホーム小部会に入会し情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。 ※コロナ禍で開催出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に可能な限り多くの情報を頂き、ご本人様の不安や要望を明確にできるようにしている。謙虚な姿勢で接し、安心してお話し頂ける雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること不安に思っていることを話して頂けるような雰囲気作りに心がけている。また、会話の中で共通事項(出身地・趣味・嗜好)を見つけ身近に感じて頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺う中で優先順位を整理し、今必要だと思うサービスを見極めるようにしている。施設で賄えない部分は他のサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場に立って考え行動し、入居者様と職員が良好な関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設に足を運んで頂ける環境を整え、面会時にはその都度施設の様子を伝えてご家族様の意見を伺うようにしている。ご家族様と施設が同じ方向を向いてケアが実施できるように常にコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限を余儀なくされた。一会ユニットバルコニーを使い屋外での面会を実施。2回目の緊急事態宣言が発令され、リモート面会の希望があり1名実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を把握し、食事席やレクリエーション活動時の配置席などを孤立せず良好な関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方においても、必要に応じて支援を行っている。 退院後の相談など。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で各担当職員を中心に本人様の意見を傾聴し、把握に努めている。 月1回のカンファレンスを行い、情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から聞き取りを行い、今まで過ごしてきた環境や思いを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定をはじめ、食事・入浴・排泄状況等、心身状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成にあたって、ご本人様・ご家族様・施設職員の意見を踏まえ、半年に1度介護計画の見直しを行い、ご本人様・ご家族様にとって満足のできる介護計画書となるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあればケース記録や申し送りノート、利用者ノートを活用し情報共有しケアの実践・改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった対応ではなく、その時々において最善の策を検討し、臨機応変に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を求め自ら出向く活動と、施設へお招きし楽しむ活動を一人一人の状況に合わせ支援している。 ご家族様にも定期的に外出してもらえるようお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様個々にかかりつけ医があり、基本的にご家族様が受診対応を行っている。受診の際、施設の様子が分かるように情報提供している。必要に応じて管理者と一緒に同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成30年3月から非常勤の看護師を配置。介護・看護が連携を密にとり入居者様が安心して生活ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、1週間に1度は面会に伺い病院看護師に状態確認を行っている。 ご家族様とも定期的に連絡を取っている。 退院の目途が近づいたら医療相談員と連携をとりスムーズな対応ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の施設での対応について説明すると共に体調不良にはその都度話し合いを行う。 また、希望があれば特別養護老人ホームへの申し込み相談や説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、統一した対応ができるように研修を行っている。 急変や事故発生時は必ず家族に報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。 運営推進会議にて学区の総代会長様に災害時における地域の方々の協力が得られるようお願いしている。119番の通報訓練を複数回実施し、経験を詰めるようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、その方の性格等も考慮し、誇りやプライバシーを損ねないように個々に応じた声掛けと対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりに声掛けを行い、傾聴し本人様の意思を尊重出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の思いや希望を大切にし、無理強いをせず、なるべく希望に添えるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴等で衣類を準備する際はご自分で準備して頂けるように支援している。 個々で化粧水を使われている方もいる。 散髪は気分転換を兼ねて外部に行かれている方もいる。1ヶ月に2回、訪問理美容も実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍になる前は定期的買い物に出かけ、食事の準備から配膳、下膳と出来ることは一緒に行っている。 現在はイベント食やおやつ作り等に力を入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて食事量・水分量を把握し支援している。 10時と15時のお茶の時間には好きな飲み物を伺い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアが実施できるように声掛けを行い、支援が必要な方には介助している。 訪問歯科を利用し、定期的にメンテナンスされている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、トイレ誘導を実施している。排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好を確認し、できるだけ多くの水分摂取を取って頂くようにしている。また、ご家族様に協力して頂き、ヨーグルトなどを食べてもらっている。体操や運動への参加を促し、腹部マッサージ等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は固定してしまっていますが、13時～16時の間で本人様の希望を伺い入浴して頂いています。また、身体状況において別日に変更するなど臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室対応になっており、自分の好きな時間に休んで頂くようにしている。日中の活動を充実させ、昼夜逆転が無く、夜間にしっかり寝て頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は事務所で管理し、薬のセットは看護師が実施。お薬手帳や薬情で確認できるようにしている。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用して頂くようにしている。症状の変化を観察し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、日常生活の中で役割を持ちながら生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は病院受診の機会のみになってしまった。 天気がいい日は施設周辺を散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様・ご家族様が希望された場合は居室にて現金を所持したり事務所で預かりしている。自動販売機でジュースを買ったり、買い物に出かけた際、好きなものを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話をかけたいと希望があった場合は施設の電話機をお貸ししている。手紙についても希望があれば対応する。年賀状を書いてご家族様に送っています。リモート面会も実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感が出るように季節花を飾ったり作品を作り掲示している。毎日掃除を行い不快に感じないよう清潔保持に努め、気持ちが和らぐような雰囲気作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所に椅子を持って日向ぼっこしたり、ソファーに座りゆっくりTVを見たり、ユニット間の移動も自由にしており、個々の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れたものを持ってきて頂くように声掛けを行っている。仏壇をもって来られている方もおり、基本的には、どんなものも持ち込んでいただいてもよいとしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造になっており一人でも安心して生活ができるように配慮されている。		